

あなたに贈る健康へのメッセージ ― 知ってください病院のこと、身体のこと

医科大どおり

CONTENTS

- 循環器センターの開設について
- 研修医・指導医紹介
- 病棟紹介（新館6階西病棟）
- はじめまして
- スペシャリスト紹介
- 私の好きな風景
- お知らせ
- 医科大Q&A



本城さま

- おとうさん 秀俊さま
- おかあさん 絵梨奈さま
- 赤ちゃん 拓海(たくみ)くん
平成28年7月23日生
3,506g 男の子



はじめまして

2人目の妊娠・出産でしたが、不安や悩みはありました。先生や助産師さん、学生さんが丁寧に答えて下さったり、アドバイスをしてくれたので安心する事ができ、検診の度に見る赤ちゃんの成長を感じながら楽しく妊娠生活を送ることができました。「早産の可能性がある」と知った時は驚きと不安でいっぱいでしたが、夫の助けもあり安静にしていたおかげで、ほぼ予定日通り無事に産出する事ができました。出産中も先生や助産師さんが、力の入れ方や抜き方を優しく声をかけながら教えて下さり、とても助かりました。本当にありがとうございました。これから家族4人で楽しく過ごしていきたいと思います。

医科大どおり

2016年 季刊誌 第22巻 第2号 発行/金沢医科大学病院

編集/金沢医科大学病院ニューズ編集委員会

私の好きな風景

最近、金沢港には頻りに大型クルーズ船が、寄港している。船の外観からも豪華さが感じられ、船旅を十分に楽しんでいるのが、乗船客の表情からうかがえる。私も、いつかクルーズ船に乗れることを期待しながら、シャッターチャンスを持った。



撮影:出版メディア業務課 中谷 渉

病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度先進医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

- 当院は、医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。
- 人間としての尊厳や人権が尊重され、安全で良質な医療を公平に受けることができます。
 - 病状や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
 - 十分な説明と、情報提供を受けたうえで、ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
 - 治療のどの段階においてもセカンドオピニオン（他の医療機関の医師の意見）を求めることができます。
 - 診療記録の開示を求めることができます。
 - プライバシーは尊重され、個人情報には厳重に保護されます。
 - 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。

患者さんへのお願い

- 当院は、大学病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。
- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
 - 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
 - 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
 - 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
 - 当院は教育・研修施設として医学生・看護学生等の臨床教育実習を行っておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

お答えします！医科大Q&A

Q

現在工事中の建物について詳細を教えてください。

(50代男性)

A

病院の正面玄関として整備している「中央診療棟」をご紹介します。

建物は4階建てで正面は全面ガラス貼り、建物に入るとエントランスホールは3階までの吹き抜けの広々とした開放された空間となっており、その左側には中央受付、右側にはカフェや売店、花屋などのアメニティ部門が充実、配置されております。

また、2階は外来部門、3階はリハビリテーション部門、4階は収容人員600名の講堂となっており、来年5月末の完成予定です。

現在、病院をご利用のみなさんには一部仮設で非常に狭く、ご不便・ご迷惑をおかけしておりますが、完成までの間、ご協力の程よろしくお願いいたします。

(病院管理課)



夕暮れの能登里山海道から見た金沢医科大学病院

病院の理念

私たちは「生命への畏敬」を医療活動の原点として次のような病院を目指します

- 患者さん中心の安全で質の高い医療を提供します。
- 人間性豊かで有能な医療人を育成します。
- 新しい医療の研究・開発を推進します。
- 地域の医療機関と協力し地域の医療福祉の向上に貢献します。

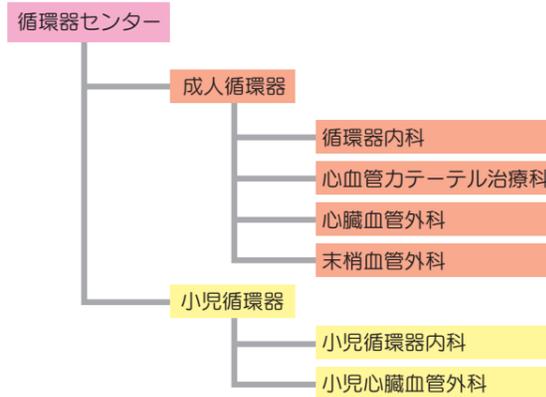
循環器センターの開設について

24時間 365日、特色ある医療機能の構築を目指して！

診療体制・方針

金沢医科大学病院は、平成28年4月に心臓病の専門医療を強化するため循環器センターを開設いたしました。右の図の通り、成人と出生前の胎児も対象にした小児の2分野について診療体制を整えたのが特徴です。

成人循環器は、現在の死因の2番目にあたる心疾患や血管疾患を対象として、適切な診療科を受診する事で内科的治療、外科的治療までのタイムロスをも最小限に抑え、生命予後の改善を含めた患者さんへの負担や入院期間短縮につなげていきます。



循環器センター体制図

また当院では、急性心筋梗塞、不安定狭心症、大動脈解離（瘤）、肺梗塞など、突然の胸痛に対して、平成25年に「胸痛ホットライン（専用の電話窓口）」を設けており、ご相談を含め24時間365日地域密着を目指した対応もしております。

当医師は、内科的疾患に関しては、心血管カテーテル治療科の北山道彦教授、土谷武嗣准教授と梶波康二教授をはじめとする循環器内科医師、外科的疾患に関しては、心臓血管外科の坂本滋教授、永吉靖弘准教授、末梢血管外科の四方裕夫教授、野口康久講師が対応いたします。



手術中の坂本教授(写真上)、北山教授(写真下)



前列左から石丸准教授、四方教授、坂本教授、永吉准教授、野口講師(後列右)

次に、小児循環器は2つの診療科が連なり、心臓を患ったお子さんが治療の対象となります。小児循環器の治療は、チーム医療が不可欠で、それらの診療科だけでなく、産科や新生児科などと緻密な連携をとり、治療を行なっていきます。

また、ご両親には、不安を取り除くために疾患や治療方針についても、事細かく説明をいたしております。担当医師は、小児循環器内科の中村常之准教授、小児心臓血管外科の石丸和彦准教授が対応いたします。



カンファレンス中の中村准教授(左側手前)、石丸准教授(右側中央)

胸痛ホットライン



緊急治療を要する急性心筋梗塞、不安定狭心症、大動脈解離、急性肺梗塞などの心疾患及び動脈疾患のサインである「胸痛」を訴える患者さんに対して迅速な対応をいたします。また、検査の結果、他の原因から生じた胸痛と判明した場合、速やかに該当診療科への手配をいたします。

電話番号 076-286-8100 (はあとまる)

問い合わせ先 〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学一丁目一番地
金沢医科大学病院 地域医療連携事務課
TEL: 076-218-8219 FAX: 0120-076-286
E-mail regional@kanazawa-med.ac.jp



(記：循環器センター センター長 坂本 滋)

病棟紹介（新館 6 階西病棟）



病棟スタッフ

新館 6 階西病棟は、病床数 45 床、高齢医学科 17 床、内分泌内科 12 床、神経内科 10 床、消化器内視鏡科 3 床、共有ベッド 3 床を担当する混合病棟です。入院される患者さんの抱える疾患や障害、それに伴う生活の困り事も様々です。スタッフは患者さんの健康に寄与し、安心して療養生活を送ることができるよう、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカーと協働しながら日々チームで取り組んでいます。

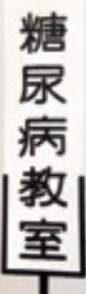
現在の取り組みの一部をご紹介します



糖尿病教室の様子

開催日：月2回 第2火曜日、第4水曜日

* 医師・看護師・栄養士よりそれぞれの専門的立場でわかりやすく説明しています。外来・入院されている方どなたでも気軽に参加できます。



フットケア中の様子

糖尿病の患者さんや高齢の患者さんの足の観察とケアを行っています。



生活リズムの調整中

夕方になるとソワソワする患者さん、夜間不眠の患者さんが安心して過ごすことができるよう日中は車イスでの散歩などを行い生活リズムを整えるお手伝いをします。



退院支援(カンファレンスの様子)

患者さんが退院した後も安心して過ごせるようにケアマネージャーや訪問看護師とカンファレンスを行い退院後の生活について検討しています。

(記：新館 6 階西病棟 師長 森垣 こずえ)

スペシャリスト紹介

認定資格: 検診マンモグラフィ読影認定医師・撮影診療認定放射線技師とは？

乳がんの早期発見のためにマンモグラフィ（乳房X線撮影）は有効な検査であり、見落としを防ぐためには高い撮影技術と読影力が必要とされます。この認定資格は、日本乳がん検診精度管理中央機構が行う講習・試験を受け、マンモグラフィ読影・撮影に関して一定基準以上の知識・技術を有すると認められた場合に与えられます。放射線科では 4 名の認定医師と 9 名の女性認定技師が在籍しています。



デジタルマンモグラフィ

現在の仕事について

患者さんに対し思いやりを持って接するとともに、認定資格を生かし質の高い画像提供および読影を行っています。乳腺専門の臨床医とのコミュニケーションを図るために定期的に行われる乳腺外科のカンファレンスに参加したり最新情報の習得のために研修会に出席したりしています。

資格取得のために

資格取得のためには講習会を受講し、試験での評価により認定が与えられます。また 5 年ごとに講習・試験を受け更新することが義務付けられています。

仕事でのやりがい

乳がんは早期発見し治療を受ければ高い治癒率が期待できます。そのために私たちができることは診断能の高い画像を提供し、読影することです。非常に早期の段階で発見できることを願って日々業務に励んでいます。



スタッフ

今後の目標

日本の乳がん罹患率は増加しており、現在は 12 人に 1 人が乳がんになるといわれています。それに対し、検診受診率はあまり高くはありません。受診率向上と早期発見を目標に、多くの方が安心して検査を受けていただけるような環境づくりを目指してまいります。

乳房に関して何か心配事等がございましたらお気軽に受診してください。

お知らせ

金沢医科大学病院小児外科 『すみれの会』 平成28年度 サマーキャンプを開催いたしました

小児外科疾患の中には、手術治療を行った後にも長期的に疾患による問題をきたしてしまうものがあります。手術を受けた子どもたちが保育所や学校などの集団生活を営むようになると、社会生活上での問題に直面する場合もあり、このような子どもたちに対して、医学的なケアに加えて、社会的、精神的な支援が不可欠と考えます。

私たち小児外科教室ではそういった中で特に排泄に問題を抱える子どもたちの養育を支援する意味から、子どもたちの自立心の育成に貢献したいと考え、昭和57年に子ども・両親・医療者からなる“すみれの会”を設立しました。その後30年以上経った現在も、子どもたちを中心に、医師・看護師と共に毎年活動をしています。



白山ろく少年自然の家にてキャンプを行う子どもたち

今年は7月28日(木)～7月30日(土)の2泊3日、白山ろく少年自然の家を利用し、サマーキャンプを行いました。

美しい山や川に囲まれ、天気にも恵まれたおかげで、太陽の下で思いっきり遊ぶことができました。

参加してくれた子どもたちの笑顔を見ていると、普段なかなか経験することのできない野外炊飯やイワナつかみなどの活動を通して、自然と触れ合うことの楽しさを感じてくれたのではないかと思います。

研修医・指導医紹介

研修医紹介



2年次初期臨床研修医
櫻井 尚子(さくらい なおこ)
群馬県出身

【医師を志したきっかけ】

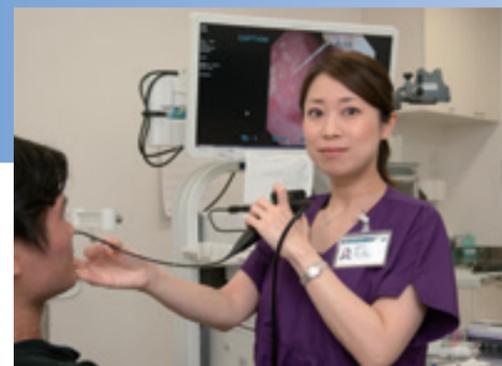
きっかけは外科医として勤務する父と一緒に仕事したいという子供心です。父はよく当直しており、母と着替えを届けに行きました。部屋に姿はなく代わりに伸びたラーメンがあり、多忙なのは子供でもわかりました。開業してから一緒に過ごす時間が増え、医師がどんな仕事なのかを間近で感じる事ができましたが、人の命と向き合う事を一生背負えるのか漠然と抱いていた夢に悩みました。しかし、患者さんと真剣に向き合う父を見て、改めて尊敬しここまで育ててくれた両親、周囲の方々に何かしら貢献したいと思い医師を目指すことを決めました。

【臨床研修中に印象に残ったエピソード】

【臨床研修中に印象に残ったエピソード】

私がある科で研修中、闘病中で何よりも辛い思いをしているはずの患者さんが早朝・夜間診に行っても嫌な顔せず答えてくださり、帰り際には「頑張ってるね」「お疲れ様」と逆に励まされた事がありました。ささいなことでしたが、とても印象に残り、医師や看護師などあらゆる職種の方々はもちろん患者さん含め全ての方が先生であり支えられているのだと感じました。初心を忘れず、謙虚な気持ちで日々精進していきたいと思えます。

指導医紹介



耳鼻咽喉科
寺口 奏子(てらぐち かなこ)

【最近の研修医の指導について感じていること】

耳鼻咽喉科の研修を行う研修医は1～2か月交代のことが多く、掘り下げて耳鼻咽喉科を学ぶには制限があります。しかしその中でも、耳鼻咽喉科には医師として必要なプライマリ・ケアの要素がたくさんありますので、咽喉頭の所見や気道確保などの知ってほ

しいエッセンスを中心に指導するように努めています。また教育全般において言えると思いますが、時間が限られているからこそ、「なぜそう思うのか」「どうしたらよいのか」など、研修医自身に考えてもらう機会を持つように心がけ、有意義に学んでもらえるように意識しています。

【自分の研修医時代との違い】

現在の初期臨床研修制度が始まる前に医師になりましたので、他科を経験することなく耳鼻咽喉科一筋に診療してきました。また達成目標がある程度明示された、系統だった指導も今ほど確立しておらず、先輩方の技術を「見て盗む」ことも多かったように思います。教えて貰うことは勿論重要ですが、ぜひ研修医には「見て盗む」ことで習得される技術や医師としての感覚も身につけてほしいと思います。